

皆川州正先生からのメッセージ

50周年、おめでとうございます！

福祉心理学科の“福祉”には、生活し人生を送っている人びとの幸せに貢献しようとの思いが込められていたといわれます。人の幸せを願う思いが福祉心理学科の原点にあり、卒業生の皆さんは、在学中、その思いに意識せずとも触れ、それは心の中の種になったことと思います。そして、卒業後の人生においては、その蒔かれた種が各人のふさわしい“時機”にあって芽を出すことと思います。

「良いときは悪いとき、悪いときは良いとき」といわれます。人生ではさまざまなことがあります。とりわけ、自分にとって悪いこと、苦しいこと、つらいことが起きたときは、「もう嫌だ」「もうダメだ」と自暴自棄の思いにもなり、人生を投げ出したくもなることでしょう。そのとき、どうか辛抱されて、自らをふりかえり、一からの再出発と思い、“牛の歩み”であっても歩まれることを願っております。その当時は悪いと思えたことが、やがて人生の大きな糧となり、実は幸いだったと思える時が訪れることと思います。

無理はされず、人生で“雨降り”のときは立ち止まって雨宿りし、
疲れきったとは休んで気力を回復し、再び歩まれてください。

